



2008 年度(平成 21 年 3 月期) 第 3 四半期決算説明会 質疑応答 (要旨)

- ✚ 日時: 2009 年 2 月 6 日(金) 16:00~17:00
- ✚ 会場: グランドプリンスホテル新高輪 国際館パミール「香雲」

以下は、2009年2月6日に実施いたしました第3四半期決算説明会における質疑応答の模様(概要)を取りまとめたものです。

- Q1. 国際線旅客についてビジネスクラス等の業務需要が低迷しているようですが、足元の需要動向を教えてください。**
- A1. 国際線旅客の足もとの動きを見ると、円高や1月からの燃油サーチャージ引き下げの影響等もあり韓国、 Guam、香港といった近距離路線での観光需要は月により前年を上回るなど幾分回復の兆しが伺われます。一方、ビジネス需要については世界景気の急速な悪化を背景とした企業の出張抑制の動き等から秋口以降落ち込みが目立っており、前年比△10~20%強の水準で推移しています。
- Q2. 2009 年度に実施予定のコスト構造改革の効果を 500 億円と試算していますが、2008 年度下期に前倒し実施した 90 億円の効果はこの 500 億円に含まれていますか？また、2009 年度に実施するコスト構造改革について、効果の大きいほうからいくつか施策ごとの効果額を教えてくださいませんか？**
- A2. 2009 年度の費用削減効果額 500 億円には、2008 年度下期に一部前倒しで実施した施策の効果額 90 億円が含まれています。また、2009 年度に全面展開するコスト構造改革の具体的な施策内容および効果額等の詳細については 3 月に予定している 2009 年度計画発表時に説明させていただく予定です。
- Q3. 第 3 四半期決算では、貸借対照表上にかなりの繰延ヘッジ損益が計上されていますが、この背景等について解説してください。**
- A3. 当社は、燃油費の変動を抑制する目的(ヘッジ目的)でデリバティブ取引を行っております。当社が行っているデリバティブ取引は、殆どの部分にヘッジ会計を適用しており、将来に係るヘッジ損益については当期の損益として認識せず、期日まで繰延処理をしています。この結果、上述のように、各期末のヘッジ評価差損益については、損益計算書ではなく、貸借対照表上の「純資産」の部の繰延ヘッジ損益として計上されます。
- Q4. 先般発表した 2009 年度の路線便数計画では、国際線旅客・国内線旅客ともに供給規模を一段と削減する計画となっていますが、この供給削減は 2009 年度の需要減少予想をどの程度織り込んで作成したのですか？また、今回の路線便数計画の見直しには、成田空港発着の国際線旅客便や国際貨物便の運休・減便が含まれていますが、この結果、成田空港の発着枠は余剰となりませんか？**
- A4. 2009 年度の路線便数計画は、現時点で予測した需要の減少想定を織り込んで作成しています。今後とも需

要の見通しに応じて迅速・機動的に対応していく方針です。

また、将来的な事業計画の具体的な内容については、3月に予定している2009年度計画発表時に説明させていただき予定です。現時点では、配分されている成田空港の発着枠は全て活用することを考えています。

Q5. 今後も社債の償還や長期借入金の返済が予定されていますが、資金面での対応はどのように考えていますか？

A5. JALグループの2008年12月末時点での手元流動性は、現預金と現金への換金性の高い有価証券の合計で約2,000億円あり、減価償却費等を勘案すると、資金対応については当面問題ないと考えています。なお、2009年度の資金計画については、設備投資の一部見直しも等も含めて現在精査中であり、3月に予定している2009年度計画発表時に説明させていただき予定です。

Q6. 優先株の配当に関する考えをお聞かせください。

A6. 現時点では優先株の配当方針に変更はありません。今後も収支改善に努め、配当の実現に向けて最大限の努力を続けていく所存です。

以 上